

あいち病害虫情報 最新情報

令和 7 年 6 月 1 7 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

向こう1か月の気温は高い

東海地方は6月9日ごろに梅雨入りしたと見られます。名古屋地方気象台6月12日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の天候は、暖かい空気に覆われやすいため、気温は高く、太平洋高気圧に覆われる時期があるため、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込みです。

イネいもち病（葉いもち）

B L A S T A Mを用いた葉いもち感染好適日の判定によれば、6月9日から11日までに、県内の複数地点で好適日となった日がありました。今後のほ場での発生状況に注意し、初発生を確認したら適切に防除しましょう。特に葉いもちを対象とした育苗箱施薬をしていない場合は、葉いもちの早期発見、早期防除に心がけましょう。なお、本日発表の「イネいもち病（葉いもち）情報第1号」に葉いもち感染好適日の判定結果を掲載しましたので、参考にしてください。

イネ白葉枯病

近年発生が多かったほ場では、出穂3～4週間前に薬剤防除を行いましょう。また、本病は、畦畔や水路に自生するサヤヌカグサ等が第一次伝染源であるため、畦畔除草を徹底しましょう。

トビイロウンカ等の飛来状況

トビイロウンカ及びセジロウンカは、梅雨前線の活動に伴い断続的に飛来します。両種とも5月下旬の本田調査では発生を認めておらず、予察灯においても誘殺されていません。しかし、日本植物防疫協会提供の飛来予測によると、本県へのトビイロウンカ及びセジロウンカの飛来に適した気象条件は、6月16日時点で5月10日と6月15日、6月16日、6月17日（本県に到着見込み）の計4回出現しています。ほ場での発生動向に十分注意するとともに、今後、本県が発表するウンカ類に関する情報を確認してください。

斑点米カメムシ類

予察灯において、ミナミアオカメムシやカスミカメ類が誘殺されています。ミナミアオカメムシは、コムギ収穫後、タデ科雑草やネズミムギ（イタリアンライグラス）等で生息しています。また、その他の斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）は、畦畔、土手及び休耕田などで出穂したイネ科の雑草で繁殖します。ほ場周辺の除草を徹底し、繁殖を未然に防ぎましょう。

また、近年イネカメムシの発生が増加傾向にあります。今年も広く発生することが予想されますので、6月2日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号（イネカメムシ対策）」も参考に、出穂期に防除を実施しましょう。

県内水田等でナガエツルノゲイトウの発生が確認されました

尾張地域の一部の水田や水田畦畔、水路等で特定外来生物であるナガエツルノゲイトウの発生が確認されました。詳細は、6月12日発表の「令和7年度病害虫発生予察特殊報第2号」を参照ください。

ブドウの病害

ブドウ黒とう病の6月上旬の発病新梢率はやや高い状況です。本病は降雨が続くと多発するため、晴れ間を利用して防除を実施しましょう。詳細は、本日発表の「ブドウ黒とう病情報第1号」を参照してください。

ブドウべと病は、この時期の降雨で急激に発生が拡大します。発病部位は見つけ次第除去し、適切に処分するとともに速やかに防除しましょう。

ブドウ晩腐病の病原菌の胞子は、6月から7月に最も多く飛散するため、この時期に降雨が多いと発生が多くなります。昨年発生が多かったほ場では特に注意し、発病果房は見つけ次第除去するとともに、薬剤防除を実施しましょう。

ナシ、モモ、カキの病害

ナシ黒星病は降雨により胞子が飛散し、発生が拡大します。幸水では、果実肥大後期にあたるこの時期から再び果実が本病に侵されやすくなります。昨年多発したほ場では特に注意し、防除を徹底しましょう。

モモせん孔細菌病は風を伴った雨で発生が拡大します。風当たりの強いほ場では特に注意しましょう。本病の主な伝染源は枝病斑です。見つけ次第除去しましょう。品種によっては収穫が始まっていますので、農薬の使用にあたっては収穫前日数や周囲への飛散に注意しましょう。

カキの角斑落葉病菌及び円星落葉病菌の胞子は、6月上旬から7月中旬に最も多く飛散し、感染します。予防に重点をおいて、この時期に防除を実施しましょう。

チャノキイロアザミウマ

6月上旬に実施したブドウ周囲のイヌマキ（防風垣）でのチャノキイロアザミウマ生息調査（10新梢の払い落とし虫数）の結果は、少ない状況です。黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ成虫の誘殺数は、平年並の状況です。

本種は軟弱な葉や新梢で増殖するので、不要な枝は取り除くなど栽培管理に注意しましょう。ブドウでは、袋かけまでの防除を徹底しましょう。ウンシュウミカンでは、6月上旬から7月にかけて果梗部の被害が発生しやすくなります。

本種の防除適期は成虫の発生ピークです。表の発生ピーク予測日を参考に防除しましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生予測ピーク日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第2世代	6/15	6/18	6/11	6/13	6/15	6/15	6/14	6/15	6/16	6/15	第1世代 6/10
第3世代	7/6	7/10	7/2	7/4	7/6	7/7	7/6	7/6	7/8	7/7	第2世代 7/8
（前年）	7/3	7/5	6/28	6/30	7/2	7/3	7/2	7/1	7/4	7/2	（前年） 7/4
前年差	3日遅	5日遅	4日遅	4日遅	4日遅	4日遅	4日遅	5日遅	4日遅	5日遅	前年差 4日遅

各地のアメダス平均気温から予測。6月16日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年の第3世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

ナシヒメシンクイ

フェロモントラップにおける6月上旬のナシヒメシンクイの誘殺数は平年並の状況ですが、越冬世代成虫の発生が多かったため、次世代以降も発生が多くなる可能性があります。今後は途切れなく発生し、世代数を重ねるほど虫の密度が高くなります。モモやナシでは果実が食害されますので、収穫前日数に注意して防除しましょう。

オオタバコガに注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は、一部地域で多くなっています。詳しくは本日発表の「オオタバコガ情報第1号（キク等）」を参照してください。

トマトキバガの発生に注意しましょう（トマトなど）

フェロモントラップ及びトマトハウス内でトマトキバガが確認されています。本虫は成虫で体長5～7mm程度と小さい害虫であり、繁殖力が高くトマトの茎葉及び果実を加害します。令和6年9月9日発表の「令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号」を参考にほ場をよく観察しましょう。疑わしい被害が認められた場合は、トマトキバガに適用のある農薬で防除し、被害葉及び被害果は適切に処分しましょう。作終了時は施設を密閉して本虫を死滅させましょう。またほ場で発見された場合は、病害虫防除室もしくはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

アブラナ科野菜のチョウ目害虫

キャベツなどのアブラナ科野菜の残渣は、秋冬作におけるコナガなどチョウ目害虫の発生源となります。収穫終了後は残渣を適切に処分しましょう。

施設野菜のウイルス病の伝染源を減らしましょう

施設トマト（促成・半促成栽培）の栽培が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を伝搬します。次作トマトが黄化葉巻病や黄化病に感染しないように、また薬剤感受性低下個体群の野外での定着を防ぐためにも、栽培終了後に施設を1～2週間程度密閉してコナジラミ類を死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

施設キュウリでは、タバココナジラミがキュウリ退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を伝搬します。次作のキュウリに感染しないよう、栽培終了後、施設を1～2週間程度密閉してコナジラミ類及びアザミウマ類を死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

イチゴの病害虫

炭疽病は、育苗初期からの予防を主体とした防除が重要です。親株床は雨よけ等によって伝染を防ぎ、ランナー伸長期から育苗終了まで予防剤で定期的に防除しましょう。罹病株は見つけ次第直ちに引き取り除き、適切に処分しましょう。

ハダニ類は乾燥条件を好みます。空梅雨の場合、好適な条件となるので、親株床での発生状況に注意し、防除を徹底しましょう。

サツマイモ基腐病

平成30年に国内で初確認され、サツマイモ主産地をはじめ全国各地で発生しています。愛知県でも令和4年10月に初めて発生を確認した後、令和5年も発生が見られました。消毒された健全な苗を定植しましょう。感染防止のため早期発見に努め、葉のしおれや黄化、株元の変色などが見つかった場合は発生株を適切に処分しましょう。また、畑の排水対策をして滞水しないようにしましょう。サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、農研機構「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」をご覧ください。

「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」（令和4年度版） https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html

キクの病害虫

白さび病は例年、梅雨期に感染が多くなります。発病が見られるほ場では、被害葉を切除して適切に処分するとともに、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室 TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820
